

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大河原町立金ヶ瀬中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒989-1224

宮城県柴田郡大河原町金ヶ瀬字原74

E-mail kinchu@ogawara-k.miyagi.jp

Website http://www.ogawara-k.miyagi.jp/kinchu/

幼児児童生徒数 男子 55名 女子 51名 合計 106名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は学校教育目標として「金ヶ瀬中学校の生徒であることに誇りをもち、自主性と敬愛の精神に富み、心身ともに健康な生徒を育成する。」を掲げ、教育活動を行っている。ESDについては学校経営構想の中で、持続発展教育として以下の3点を指導の重点としている。

- 1 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 2 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
- 3 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等との関連や活用を通して学習や生活に生きて働く力を身に付けさせる。

①農業体験

1学年において、「地域の農業に学ぶ」と題して米作りの体験活動を行った。自分たちの暮らす地域での農業体験活動を通して、今日の農業の現状を学習し、職業理解を深め、望ましい勤労観を養うことと、金未来隊(本校の学校支援組織)などの地域の方々との体験を通して、その思いを感じさせ、地域社会を担う人材

の育成へとつなげることをねらいとして活動した。

②地域ボランティア活動（ふれあいちょボラ）

地域の人と関わり、社会の中で自分に何ができるか考えることと、相手の立場に立って活動することをねらいとして実施した。全校生徒で学校近隣の施設 5か所に分かれて、清掃等の活動を行った。3学年縦割りの5つの班には生徒間で選出したリーダーを置き、互いに意見を出し合って作業内容や必要な物品について考えた。

③伝統芸能講習会

地域に伝わる伝統芸能「堤神楽」の継承のために、郷土に誇りをもち郷土とともに生きようとする態度を育み、伝統芸能に愛着をもち、大切に受け継ごうとする心を育むことを目的として全校生徒による講習会を実施した。実施に当たっては堤神楽保存会の会員の方に講師を依頼した。



①農業体験



②地域ボランティア活動



③伝統芸能講習会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>学校経営全体構想の「なすことによって学ぶ」指導の中の各学年の「総合学習の時間」に「持続発展教育」として位置づけている。指導内容については、各学年の生徒の発達段階を考慮し、キャリア教育等の教育活動との関連を意識しながら、全体として調和のとれた活動になるよう意識している。各学年の学習内容についても互いに関連を持たせ、学年が上がる毎に活動の範囲を広げたり、より責任のある役割を担わせたりするように工夫している。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

組織として取り組めるよう総合学習担当を置き、学年間の連絡・調整や教務担当と時程等の調整を行い、学校全体として協力体制をとって活動できるようにしている。また、本校は小規模校であるので、その特性を生かして積極的に縦割り活動を取り入れている。そうすることで、上の学年を活動に当たってのモデルとして機能させ、生徒の活動時の組織が受けつがれていくように工夫し、自主的な活動を促している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

年2回の職員の反省会や生徒に対する事後アンケートの結果などをもとに、翌年度の教育計画に反映するようにしている。

生徒はそれぞれの計画に意欲的に取り組んでいた。関わっていただいた地域の方々からの評判も上々で、生徒にとって自分が社会の役に立てること等を実感できる貴重な活動となった。活動を継続していくために、水田の提供を続けていただけるよう支援組織との連携を持続させること等が必要である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

農業体験については文化祭でステージ発表の機会を作り、プレゼン資料で全校生徒および保護者、地域の方々等に発表している。また、それぞれの活動については、学校だよりや学級だより等で写真を交えて記事にしたり、保護者会の際に話題にしたりして、保護者に活動の様子を伝えている。伝統芸能の堤神楽については、発表の機会が特になく、今後に向けての課題といえる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成としては、第一に本校の学校支援組織「金未来隊」との連携があげられる。金未来隊は、同窓会やPTAに関わる方々を中心に結成されている。地域防災訓練部、農業体験活動部、地域文化継承部、学校行事支援部の4部門で構成される組織である。

この他にも町教育委員会生涯学習課や公民館等とも連携を図っている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

担当者がユネスコスクール東北大会、宮城県大会に参加した。その際にESDについて先進的な取り組みをしている学校の活動やESD活動支援センターの役割等について研修を行った。また、その際にセッションに参加し気仙沼市立唐桑小中学校と只見町立明和小学校の事例を話題として、意見交換を行った。

また、町内の他の学校での取組について、教務担当者が集まった際に話題にして、意見交換をした。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動を通して、生徒が自主的に活動する姿が見られたり、教科の授業では見られない生徒の一面が見られたりすることで生徒に対しての多面的な評価が可能になる。また、教員も共に活動することで人間関係がより密になり、教育活動が円滑になる効果が得られた。

地域との結びつきという点では、農業体験や伝統芸能講習会など地域の強みを生かした活動を取り入れることで、地域に開かれた学校づくりの推進に役立っている。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成29年度に実施した学習については、教育効果が十分に得られており生徒からも好評であることから、今後も実施した際の細かな反省点を改善しつつ、継続して実施する予定である。

そのほかにも防災活動や人権・平和教育、健康・福祉など幅広く教育活動の中に位置づける予定である。以下に主な活動予定をあげる。

- 4月：避難訓練(地震)
- 5月：避難訓練(火災)、田植え、口腔指導
- 6月：避難訓練(Jアラート等)
- 8月：人権教室
- 9月：稲刈り
- 10月：文化祭(総合学習発表)
- 11月：地域ボランティア活動(ふれあいちょボラ)、地域防災訓練